

「死にたい。」皆さんはその言葉をどのように受け止めますか。冗談だと笑う人、関わりたくないと思う人、「そんなことを言ってはいけない」と諭す人、様々な人がいることでしょう。しかし、あなたが悩みを抱えているのと同じように、きっとその言葉を発した人にも伝えたい思いがあるはずです。

私は、二年前神奈川県座間市で起こった事件を忘れることができません。それは、二十七歳の男性が、SNS上で自殺を希望している人に近付き、「一緒に死んであげる」ともちかけて、女性八人、男性一人を殺害した事件です。容疑者は、死にたいという若者によりそうように、優しく接したので、被害者達は救いを求めて、ついに行ってしまったのです。死にたい人を望み通り死なせることは、本人達にとって満足なことだったのでしようか。ニュースを見ていて、私はさらに驚きました。容疑者は「本当に死のうとしていた人はいなかった。」と言ったのです。「死にたい」という言葉は「自分の人生を終わりにしたい」ではなく、「死にたいほどつらい」という意味だったのです。言い換えれば、「このつらさから逃れたい。」「助けてほしい。」という心の叫びに聞こえてきませんか。

では、なぜ被害者達は身近な人ではなく、SNS上の見知らぬ人に助けを求めたのでしょうか。容疑者とSNSでつながっていた十五歳の少女は現実世界で「死にたい」と相談しても相手にされなかったり、批判されたりしたと言います。しかし、SNSの中では自分の意見に共感を持ってくれる人とつながれるため、自分の求めている答えを得ることができます。そのことが結果として悪い方向へと向かわせてしまったのです。

また、先日、いじめにより自殺した中学生の遺族の体験談を読みました。我が子の死という耐えがたさと共におそってくるのは、死の真相が見えないことによる苦しみでした。自分の話を聞いてくれる人がいない、そして聞こうとしない人々がいる。なぜみんなはもつと知ろうとしないのか。行き場を失った「助けて」の声であふれています。

これらはただ二つの事例にすぎません。程度の差はあっても、この世に苦しみのない人はいないでしょう。私も含めて、多くの人は自分の生活に精一杯です。周りの人の悩みまで受け止める余裕はないのかもしれませんが。しかし、この世界で、日本で、群馬で、そして今この場所で、もし苦しい胸の内を少しでも表現しようとする人に出会ったなら、これからの私はそっと耳を傾けようと思います。私は弱い人間です。今以上の苦しみを恐れませんが、でも、弱いからこそできることもあると思うのです。その人にとって、とても大切な、言いにくいことを言ってくれるようなら、私はただ側で寄り添っていようと思います。「弱い私よ、強くなれ。」そう念じながら、一緒に時を過ごします。そして、しばらくして今度は私の悩みも打ち明けます。お互い、張りつめた心に小さな空気穴をあげたら、ほんの少し心が軽くなると信じるからです。

「死にたい。」そう思う人は、特別な人ではありません。私もあなたもいつかそんな風に思ってしまう日が来るのかもしれない。でも、その時に素直に自分の気持ちを言い表せたら、そしてそれを聞いてくれる人がいたなら、「生きたい。」そう思うはず。悩みを抱え、生きる私たちの声なき声。あなたの思いはきっと伝わります。明日の朝が待ち遠しくなる世界を、私達で創っていきましょう。